

海津木苑の歴史から人権問題を考える

海津木苑の前身のし尿処理施設は昭和39年に当時の古賀町に建設され、福岡市、津屋崎町を含む近隣5町で運営されました。しかし、悪臭や放流水による河川水質汚濁が発生した

ことで周辺の生活環境を悪化させる事態となりました。また同時に、小学校で、し尿処理施設の近くに住んでいるA地区の子どもたちが、友達から「A地区の子は臭い」などといった言葉を浴びせられる人権侵害に関わる事象が起きていることが明らかになったのです。そして、A地区育成会からし尿処理施設撤去に関する請願書が提出され、地域住民の生活環境と人権を守れなかったこのし尿処理施設は、操業開始からわずか15年で閉鎖されることになりました。

それから当時の古賀町は、福岡市にし尿処理を委託していましたが、期限を提示され、新たな処理施設建設が必要になりました。しかし、前施設の影響で、どの候補地との交渉も決裂。



▲40年ぶりにリニューアルされた海津木苑

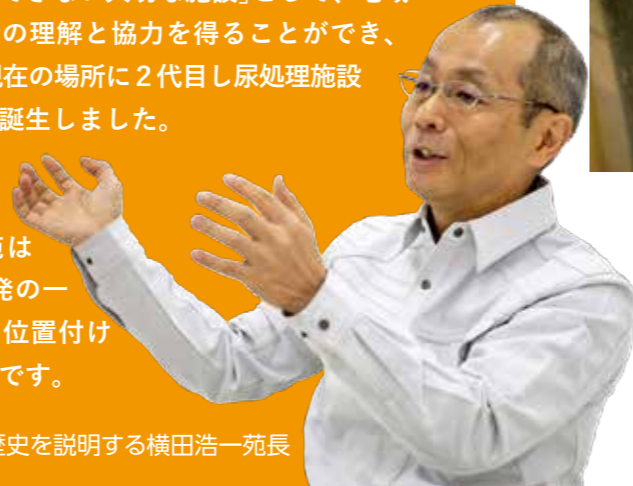
その後、現在地に設置することを申し入れました。地元区と何度も協議を重ねていく中で「し尿処理施設の建設は住民の生命に関わる重要な問題であり、建設に反対するということは、し尿処理

施設にまつわる差別を容認することにならないか。し尿処理施設を受け入れ、そこから部落差別をはじめとするあらゆる差別をなくしていく運動を展開すべきではないか」という意見が出されました。そして「人が生きていく上で

欠かすことのできない大切な施設」として、地域住民や関係者の理解と協力を得ることができ、昭和58年、現在の場所に2代目し尿処理施設「海津木苑」が誕生しました。

このような歴史を踏まえて、海津木苑は人権教育・啓発の拠点としても位置付けられているのです。

▶海津木苑の歴史を説明する横田浩一苑長



▲海津木苑の三好弘実係長が装置から取り出した助燃剤を触り、その温かさや臭気がないことに驚く真鍋さん

街角カメラリポート番外編



「海津木苑」を見学してみた

福岡・古賀市内の汲み取り式便所のし尿や浄化槽の汚泥などは、令和5年12月から古賀市の「汚泥再生処理センター」古賀市海津木苑で処理されています。今回は、広報ボランティアの真鍋光さんが海津木苑を訪れ、施設見学を行いました。問い合わせ 市うみがめ課 ☎0940・62・5019

海津木苑の周辺に臭気はあるのか

古賀市の食品加工団地内に位置する海津木苑。「し尿処理」や「汚泥」という言葉から、強い臭気があるのではないかとという印象を持ったが、海津木苑に到着し、車から降りても匂いは特に感じなかった。

施設内に入ってみると、清潔感のある廊下、大きな見学窓の奥には、工場のような装置が並んでいる。始めに案内されたのは、百人以上が入れそうな広い研修室で、担当の三好係長によると「小学生の見学を想定した広さになっている。また、汚泥再生処理機能だけではなく、災害時には指定緊急避難所としての役割を担う」とのこと。食品加工団地や近所の人が利用することができるよう準備されているそうだ。

次にパソコンがたくさん並んでいる中央監視室を案内された。ここでは、海津木苑の全ての設備を監視していて、運転状況などを監視しながら、薬品の注入などもパソコン操作で簡単に調整できるとのこと、確かに

つ効率的な管理がされていた。

脱臭処理が徹底されている

いよいよ見学窓の向こう側に行くことになった。さすがに臭気があるのだろうと覚悟していたが、全然臭くない。徹底した脱臭処理がされ、大気中に放出されているそう。臭気だけではなく、処理工程で発生する汚泥は古賀清掃工場の燃料として利用されていた。実際に、その燃料である助燃剤を触らせてもらったが、とても温かく、恐る恐る匂ってみたが、これも臭くなかった。

海津木苑は私たちの生活を守る大切な施設

一通り見学したが、臭気は全くなく、下水排除基準に合わせて水処理されたし尿などは下水道に放流され、さらには汚泥を資源として利用する取り組みまで行われていた。また、確実かつ効率的に管理され、素晴らしい施設だった。海津木苑は「私たちが生きていく上で欠かすことのできない大切な施設」と、妻や仲間たちにも伝えたい。



し尿処理設備を間近で見学



中央監視室を見学



映像で海津木苑の概要を学習

広報ボランティア 真鍋 光
Public Relations Volunteer Manabe Kou

広報ボランティアだけでなく、郷育カレッジ運営委員としても活躍する真鍋さん。常に刺激を求め、時には歯に衣着せぬ物言いで取材を行います。

